



TITLE:

經濟漫録(三)

AUTHOR(S):

瀧本, 誠一

CITATION:

瀧本, 誠一. 經濟漫録(三). 經濟論叢 1917, 5(3): 449-454

ISSUE DATE:

1917-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127255>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷五第

行發日一月九年六正大

論說

同盟罷工と和解及仲裁制度(一)……………

法學士

河田 嗣郎

所得税ニ於ケル所得ノ意義(一)……………

法學博士

神戸 正雄

露西亞主義……………

法學士

米田 庄太郎

飛脚ノ變遷(一、完)……………

法學士

本庄 榮治郎

時事問題

戰後^{ニ於ケル}軍國主義ト民主々義……………

法學博士

戸田 海市

雜錄

あだむ・すみす傳拾遺……………

法學博士

河上 肇

獨逸ノ植民的發展ノ起源……………

文學士

山本 美越乃

露國ノ定期刊行物ニ就テ(一)……………

文學士

高倉 輝

ゆこ・すけらう民族運動(一、完)……………

文學士

米田 庄太郎

經濟漫錄(三)……………

文學士

瀧本 誠一

しゅもーらゐノ戰後ノ獨逸觀……………

法學士

櫛田 民藏

米國ニ於ケル婦人ノ職業……………

法學博士

河上 肇

臺灣^{ニ於ケル}死亡率及疾病統計……………

文學博士

内田 銀藏

經濟漫錄 (三)

瀧本誠一

(廿九) 社會政策思想ノ濫觴 逸周書ノ大聚解(篇名)ニ曰ク、武王勝殷、撫國綏民、乃告周公且曰、嗚呼、殷政總々(亂也)若風草、有所積有所虛、和此如何ト此ノ一言ハ實ニ史乘ニ現ハレタ

ル社會政策思想ノ濫觴ナルベシ
三十 勞働ノ權利 勞働者ガ國家ニ向ツテ勞働ヲ求ムルノ權利アリト云ヘル社會主義者ノ教理ハ、十八世紀ノ初メニ於ケル佛國ノ碩學もんですやう Montesquieuノ首唱スル所ナリ、Esprit des

Lois 第十三篇二十九章ニ之ヲ明言セリ

卅一 獨逸ノ經濟學 かある、まるくすハ其ノ資本論第二板ノ序文ニ於テ、獨逸ニ於ケル經濟學ハ皆外國ノ學問ナリト云ヘリ、今日我國ノ人々ハ學問ト云ヘバ、獨逸ガ本家本元ノ如ク想像シ、殊ニ我カ經濟學ナド主トシテ獨逸ニ發達シタルモノト信ズルハ誤解ノ甚ダシキモノナリ、國家經濟ノ根本思想モ其ノ由來ヲ詳ニスレバ多クハ英佛ノ學說ニ淵源セザルハナシ、學者少シク反省セサルベカラズ

卅二 紙幣ニ關スル事 水戸ノ儒者立原翠軒ガ書留メ置ケル遺篋錄ト題スル書ニ、同人ガ天明三年同藩士寛上總守(名ハ獵之助ト云ヒシ人ナラン)ノ質問ニ對シテ答ヘタル紙幣ニ關スル記事アリ、參考ニ資スベクレバ左ニ其ノ全文ヲ掲ク

一紙錢ノ事、交鈔トモ楮幣トモ紙幣トモ紙鈔トモ申、又交子、會子ナド申スモノ有之、コレモ紙錢ノ事ニ御座候、其ノ起リハ唐ノ時飛券鈔引ト申物出來、商人ノ通用ニ致シ候事有之候、コレハ手形ヲ出シテ錢トトリカヘ物ニ仕用申候ニテ、其券引ヲ直ニ錢ニ用申候ニハ無之由、宋ノ慶曆年中、蜀ニ交子ト申物出來、建炎年中ニ會子ト申物出來候、コレハ紙ヲ以テ錢ニシテ通用仕候由ニ御座候、如此紙錢ノ起リシ譯ハ銅錢ノ如ク敲鑄ノムツカシキ事ナク、只シルシノ紋ヲオス迄ニテ作り申候ニ簡便又商人ノ遠方持參仕候ニモ何萬兩モ懷中ナリ候ユヘ便利ニ御座候、コレ等ノ譯ヲ以テ作り始メ申候物ニテ御在候、金ノ貞元二年ニモ行ハレ候事有之候一貫二貫三貫五貫十貫ノ五品ヲ大鈔ト申、百二百三百四百五百ノ五品ヲ小鈔ト申候テ、錢ト一同ニ通用致シ七年ツツニ限リテフルキヲバ新ラシキニトリカヘ申候由見ヘ申候、コレハ其時銅少キ故ニ製シ候由ニ御座候 元ノ太宗ノ時モ通用有之由見ヘ申候、如此世々通用有之候モ右ノ作り申候ノ

簡便ト持行申候便利トヲ以テ民ヲ助ケ申候爲メ
ニ作り申候由ニ御座候、如此ノ譯ニテ作り申候
ハハ障リモ有之間敷候ガ、上ノ貧ヲ救ハント存
シ候ヲ作り申候ハバ利ヲ得申候事ハ有之候ヘド
モ民心ヲ失ヒ候事ニ有之候テハ其費モ又御座候
儀ト奉存候、太平記ニモ今マデ無之候紙錢ナド
作り申候トテ譏リノ語見ヘ候ヲ見候ヘバ末世ノ
風儀其費有之事トハ被存候、近來諸國ニテ通用
ノ事ヨク行ハレ候由、丸龜領又伊豫阿波堀備前
岡山邊マデモ通用ノ由ニ御座候、其ノ内ニモ丸
龜阿波ナドハアヤブミ申候フリニ御座候、此レ
ハ其ノ定メノ目方ヨリハ高ク取扱候事モ御座候
事モ御座候故ノ儀ニ候由、高松ハ甚慥ニ元ヲ御
立、百貫目二百貫目ノ紙錢イツ持參候テモ其ノ
役場ニテヨク引カヘ候間下々安堵致シ申候由、
漢土紙幣ノモヨウハ詳カニ分リ不申候、高松ノ
ハ七福神ナドヲオシ、二分三分一匁五匁十匁二
十匁三十匁五十匁百匁ノ九品御座候由、其紙ハ
イヅ方ヨリ出候カ人々不存候、伊勢神領又藤堂
領鳥羽紀州ナドニテモ追々通用ノ由ニ候、右ノ

外詳キ事ハ相分リ不申候

卅三紙幣ノ意義ノ變化 紙幣ト云フ語ハ我國ニ
於テ古クヨリ傳來ノ言葉ナレドモ、昔シハ專ラ
神社ニ献スル紙ノ幣ヲ指シタルモノナリ（鹽尻
三十五卷ヲ參看スベシ）今日ノ如ク錢ノ代用タ
ル紙錢ヲ意味スルニ至リタルハ、何時ノ頃ヨリ
始リタルコトカ、識者ニ尋ネタキコト共ナリ
卅四水戸ノ紙細工 譚海ト題スル古キ寫本ア
リ、其ノ中ニ水戸ノ紙細工ニ關スル面白キ話ア
リ、曰ク水戸家ニテ用ラルル諸帳簿ハ皆西ノ内
紙ナリ、國産ナル故ナリ、扱勘定濟ミタル帳面
反古トナリタルヲバ諸役所ヨリ經師ノ役所ヘ納
ム、其ノ役所ニテ抱ヘアル經師數人右ノ反古ヲ
以テ毎日諸器物ヲ張立柿澁ニテコシラヘルナ
リ、此ノ反古ニテ張立タル船三人乗ラルル様ニ
製シタルアリ、常ハ疊ンデ仕舞テ進退シ易キ様
ニシタルモノナリ、其外軍器甲冑等ニ至ル迄紙
細工ニテ仕立タルモノアリ云々、今ハ水戸ニ紙
細工ノ盛ニ行ハルルコトヲ聞カス、營利上餘リ
見込ミナキ事業ナリシニヤ

(卅五) 信長ノ道路經營 天正三年正月五日、信長公、篠岡八右衛門、板井文助、高野藤藏、山口太郎兵衛ヲ召テ、「正二兩月ハ強テ農桑ノ時ニアラス、其暇ヲ以テ四人奉行シテ海道筋廣サ三間半、在々ノ大道三間、道ノ多ク曲リタル所ハ見計ヒ直ニツケ、石ヲ除キ牛馬ノ蹄ヲ勞セザル様ニシテ、道ノ兩邊ニハ松柳ヲ植ベシ」ト宜フテ、黄金百兩、米五百石カノ者四人ニ賄料トシテ下シ給フ、斯クテ二月下旬マデニ道橋悉ク出來セシカハ、往還ノ旅人喜悅ノ思ヲナシケル云々ト信長記ニ見ヘタリ

(卅六) 黒羽藩ノ冗員淘汰法 元祿ノ頃野州黒羽藩ニ於テ財政困難ノ爲メ諸臣ノ淘汰ヲ行ヒタルコトアリ、其ノ方法ハ一切諸臣ノ姓名ヲ一ツヅツ紙片ニ記シ、之ヲマルメテ丸トナシ、板ノ上ニコロガシテ其ノ落チタルモノヲ淘汰スベキモノトシテ、永ノ暇ヲ遣ハシタリト云フ、其ノ方法頗フル滑稽ニシテ一笑ニ値ヒスルニ過キスト雖情實緣故ヲ以テ取捨スルニ比スレバ寧ロ公平ナリト云フベシ、水戸義公之ヲ聞キ其ノ落チテ暇

トナリタル者ヲ皆悉ク拾ヒ上ケテ召抱ヘ、邸宅ヲ一所ニ賜フテ黒羽町ト稱セリト、豈好笑話ナラズヤ

(卅七) 大久保仁齋ノ經濟學 佐藤信淵ノ猶子ト稱スル大久保仁齋(別ニ樂水ト號ス)ノ著ハセル富國強兵問答ト題スル書ハ佐藤氏ノ家學ヲ祖述セルモノニシテ其ノ文甚ク粗笨ナリト雖亦一讀ノ價直アルモノナリ、著者經濟學ヲ解釋シテ曰ク、「天地ヲ經營シテ國土ヲ富饒シ足食足兵、勸農開物ノ學ヲ講明シテ永久天下磐石ノ如クニ平治セシメテ、後、高天原ニ遊ハントスルノ學ヲ修メントスル者ナリ、名ケテ經濟ノ學ト云フ」ト云ヘリ、Thomas Chalmers ガ經濟學ヲ講說スルノ口調ニ酷似スルハ又奇ナリト云フベシ

(卅八) 家督ノ語 家督相續ナド云ヘル家督ノ二字ハ我國ノ俗語トノミ思ケルニ、史記ノ越世家ニ「家有長子曰家督」トアリ、長子ハ相續法ニ依ツテ家事ヲ董督スルガ故ナリ

(卅九) 貧ハ諸道ノ妨 「貧は諸道の妨」トハ晉我物語ノ語ナリ、「それにつけても金のほしさよ」ハ

何人ノ名句カ知ラザレドモ與ニ能ク世態ヲ穿チタルノ言ナラズヤ

(四十) 管仲井田ヲ破壊ス 井田ハ秦時商鞅之ヲ廢シタルガ如ク云傳フルモ、其ノ實管仲之ヲ破リタルナリ、元ノ陳孚管仲ニ題スル詩アリ、證トスベシ、曰ク畫野分民亂井田、百王禮樂散寒烟、平生一勺漢汙水、不信東溟浪沃天、千百年眼ニ見ユ

(四一) 不知辛苦爲誰甜 不論平地與山尖、無限風光盡被占、探得百花成蜜後、不知辛苦爲誰甜トハ羅隱峰ノ詩ナリ、今日下級勞働者ガ富者ノ爲メニ役々タルハ皆此類ナリ、可憐哉

(四二) 炊烟ノ上ラザルヲ喜ブ 韓人陸鍾允ノ話ニ同國慶州府ハ往古二十五萬戶(チト疑ハシ)アリ、當時ノ文武王高臺ニ上リ、城市ヲ臨ミ炊烟ノ上ラザルヲ見テ大ニ悦ビタルガ、ソレハ城中柴薪ヲ用ヒズ、木炭ヲ用フルノ徵證、即チ進歩ノ兆候トシタルカ故ナリト云フ、仁德大皇ノ故事ニ似タリ

(四三) みるノ名説 みるハ其ノ自傳ニ於テ「經濟

學以外ニハ何等ノ知識ナク隨テ其ノ眞ノ性質ヲ了解スルコト能ハサルカ如キ人々ガ、往々自ラ甘シテ經濟學ノ指導ヲ仰カント欲スルコトアルモ、斯クノ如ク經濟學以外ニ何等ノ知識ヲ有セザル人々ニ勸告ヲ與フルコトハ、原來斯學ノ企圖スル所ニアラズ」ト云ヘリ(Autobiography, pp. 236-7) サスガみるダケアツテ其ノ見ル所大ナリト云フベシ、故ニ孜孜々汲々トシテ經濟書ト名ノ付キタルモノノミニ没頭スル者ハ遂ニ善キ經濟學者タルコト能ハサルナリ、或人謝肇制ニ詩ヲ作ルノ法ヲ問フ、肇制答ヘテ曰ク、先ツ五經ヲ讀ミ次キニ二十一史ヲ讀ムベシト、其人驚キテ默然タリト云フ、ソレトコレトハ事變ハレドモ、眞ニ經濟學ヲ學ハントスル者ハ、アラユル他ノ學科ノ大略ニ通セザル可ラザルナリ

(四四) 大岡越前ノ試驗 大岡越前守奉行タリシ時、諸藝ノ達人ヲ呼出シテ一々其ノ藝ヲ試驗セラレタル中ニ、算術ノ達人野田文藏ナル者アリ、越前守此者ニ對シ「其ノ方ハ算術ノ銘人ナル由、余カ望ム所ノモノヲ今此處ニテ致シ見セ

ヨ」ト云ハレタレバ文藏ハ如何ナル六ツカシキ事ニヤト待チ居タルニ越前守一考シテ「百ヲ二ツニ割レバイクツニナルヤ見セヨ」ト云ハレタリ、文藏ハ我ヲ計リ給フト合點シテ然ラバ十露盤ヲ御カシ候ヘ」ト云ヘバ近習ノ者起ツテ十露盤ヲ持參シケレバ文藏越前守ノ前ニ進ンテ「百ヲ二ツニ割ルニハ百ヲ玉一ツ置イテ目安ヲ二ツト置キ、二ツト一ツヲ呼テ二一天作ノ五ト相成リ候ヘバ五十ヅツニ相成リ申候」ト答ヘタリ、越前守手ヲ拍テ嘆稱シ「文藏ハ眞ニ算術ノ達人ナリ算術ハ麁相ニテハ何ノ用ニモ立タス僅カノ事ニモ丁寧ヲ以テセザレバ心元ナシ、若其方即答シテ百ヲ二ツニスレバ五十ニテ候ト云ハバ公儀ノ御用ニハ麁末ナルベシ、然ルニ其方ノ今ノ致方ハ誠ニ感ニ堪ヘタリ」トテ夫レヨリ直ニ被召出、支配勘定役トナリ、續キテ御目見被仰付、地方算用ノ隨一トシテ重用セラルルニ至レリト、遺老物語後篇ニ見ヘタリ、詰ラヌ話ナレトモ算用ノ町重ナラザル可ラザルハ眞ニ此ノ通ノ事ナリ

(四五)青貝細工 舜照堂谷響集ニ「青貝細工ハ元日本ノ特産物ナリシニ、何時ノ頃カ其ノ技ハ總テ異國ニ奪ハレタリ」トアリ、果シテ然ルニヤ

(四六)支那料理 居行子(西村遠里ノ著)ニ「タトヘ儒者バカリノ會ニテモ献立ニ牛肉ヤ家猪ヤ鶏ナドノタグヒバカリニテ唐流ノ料理シテ膳ヲスヘナバ困リノコトモ多カルベシ」云々トアレトモ、今ハ少シモ斯ル心配ヲ要セサル世ノ中トハナレリ、一笑スベシ

(四七)高百石ノ田地 田地ノ高百石ト云フハ土地ニヨリ變リアレドモ、大要八町ニテ百石ナリ、少ナキハ四町百石モアリ、多キハ九町百石モアリ云々、惺々齋日抄(尾張ノ儒者細野要齋著述)ニ記セリ

(四八)讀書人ハ經濟ヲ知ラス 清宮秀堅ノ著ハセル地方新書ノ序文ニ「地方ノコトハ其道ノ人ハ精シク知ルト雖多ハ普通ノ人ニシテ讀書ノ人ハナシ、讀書ノ人ハ經史ヲヨミ詩文ノ上ニテハ達者ナレド地方ノコトハ俗ナリトテ見向モセ

ズ」云々と記シ、又其ノ下註ニ「新井白石賴山陽ノ如キモ租税ノコトニ付テハ往々謬論アリ」ト評セリ、至極尤モノ説デアルガ、余ヲ以テ之ヲ見レハ啻タ地方租税ノコトノミナラズ、今日吾人ノ所謂經濟問題ニ付テハ徳川時代ノ讀書人ハ概テ皆斯クノ如クナラザルハナシ、是レ其ノ當時經濟學ノ發達セザリシ一原因ナリ